

巻頭言

昭和62年7月21日厚生省におきまして、保健医療局の仲村局長より社団法人日本透析医会の許可証が交付されて以来2年2ヵ月を経ました今日、法人としての医会の機構もほぼ整備され、各専門委員会の活動が開始されております。ことに昨年来、臨床工学技士の国家的認定に関する業務を着実に分担して参りました。そしてこの度は、厚生省の諮問に応じて『適正な透析導入のあり方』と題するシンポジウムを行うこととなり、その成果を実地医療の指針にすべく、緊急的な事業と取り組んでいるところであります。

このときに当たり、小児末期腎不全の実態・人工透析患者の将来予測・アクセス研究会の教育講演などを掲載した日本透析医会雑誌（5巻2号）の発刊を見ることは透析医療の現状と将来を紹介しながら、当医会の発展性を示すものと思われます。

透析療法の適応の拡大や多様化に応じて対応すべき多くの問題に医会の総力を以てその解決に努力し、この領域におきます福祉の向上に貢献することを念願して、ご挨拶と致します。

1989年9月

日本透析医会
会長 稲生 綱 政